

日照不足と低温に伴う農作物の技術対策情報第 2 号 (水稻関係)

～いもち病への警戒と登熟促進対策を！～

I 気象概況

東北太平洋側では、8月1日頃から日照時間の少ない状態が続いており、8月10日に仙台管区气象台から、「東北太平洋側の日照不足と低温に関する東北地方気象情報 第1号」が発表され、日照不足と低温に関する注意喚起がなされております。8月15日に発表された週間天気予報においても、この状態は今後1週間程度は続く見込みです。下記の農作物等の技術対策を徹底して下さい。

東北地方週間天気予報 (予報期間 8月16日から8月22日まで)

向こう一週間、湿った空気や気圧の谷の影響により雨や曇りですが、期間の中頃は日本海側北部で晴れる所もある見込みです。

最高気温は平年より低く、かなり低い所もあるでしょう。最低気温は平年並か、平年より低い見込みです。なお、太平洋側を中心に低温や日照不足が続きますので、農作物の管理等に十分注意して下さい。

(平成29年8月15日16時32分 仙台管区气象台発表)

II 農作物等の技術対策(水稻)

1 概況

- (1) 8月10日に「日照不足と低温に伴う農作物の技術対策情報」を発出したところであるが、天候が回復していないことから、いもち病の発生が懸念される状況が続いている。
- (2) 県内の水稻の平坦地域では8月9日現在で概ね穂揃期(水稻作付見込面積の95%以上が出穂した日)となっているが、直播栽培を行っているほ場や生育が遅れているほ場ではより感染する危険性が高い。
- (3) 7月下旬から8月上旬にかけて行った巡回調査の結果、葉いもちの発生量は平年より少なかったが、一部上位葉での病斑が見られるほ場が確認されている。(病虫害防除所)
- (4) 葉いもちの大量感染に好適な気象条件が連続して出現しており、生育の遅い水稻等で上位葉での葉いもちの発生や穂いもちへの感染が非常に懸念される。

2 技術対策

いもち病対策

- 葉いもちの発生が確認されたほ場では、雨の合間をねらい直ちに薬剤散布を実施し、拡大防止に努める。
- 葉いもちの発生が確認されていないほ場でも丁寧に見回り、葉いもちを確認したら直ちに防除する。
特に以下のほ場では発生・拡大に注意する。

いもち病の常発地帯

- 育苗箱施用剤や水面施用剤を施用していないほ場
- 生育が遅いほ場や葉色が極端に濃いほ場

※環境保全米等に取り組んでいる生産者は、病害等の発生により計画外の防除を実施する場合、事前に所管するJA等に相談する。また、農薬の選定に当たっては、最新の農薬登録情報を確認して行う。

登熟促進対策

- 穂揃期以降は間断灌水とし、上位葉や根の活力を維持して登熟の促進に努める。